

皆さん、こんにちは。皆さんこんにちは、今日はお客様としまして、神戸ロータリークラブ加藤様、会員増強ゲスト宮光様、ようこそお越しいただきました。ごゆっくりお過ごしください。

早いもので、8月最終の例会となりました。

全国高等学校野球選手権第100回記念大会も、熱気に包まれ無事終わりました。

今日は、「阪急ブレーブス」のお話をします。

《昭和10年》

読売新聞の「大日本東京野球倶楽部」(後の読売ジャイアンツ)や阪神電鉄の「大阪タイガース」(後の阪神タイガース)が結成。この時アメリカを旅行中であった小林一三は、すぐに電報で球団創設を指示。

《昭和11年》

「大阪阪急野球協会」(後の阪急ブレーブス)が誕生。

阪急は、企業名を冠にした最初のプロ野球チームとなる。

《昭和12年》

阪急西宮球場が開場。アメリカシカゴのリグレー・フィールドを参考に、日本初の鉄傘付き2層式スタンド等最高の設備を持つ球場を5ヶ月の突貫工事で完成させる。

阪急ブレーブスは、投打の歯車がかみ合わず長期間低迷する。

《昭和38年》

西本監督が就任し、新生ブレーブスがスタートし、パリーグ制覇を果たした。

《昭和44年》

花の44年組といわれる山田久志・加藤英司・福本豊が入団。パリーグ3連覇を果たした。

《昭和50年》期待の星・山口高志が入団して、上田監督のもと、広島との日本シリーズを制し、球団創立40周年にして悲願の日本一に。

《昭和51年》

迎えた巨人との日本シリーズ挑戦6度目にしてついに悲願の巨人打倒を果たし、日本一連覇を達成する。

《昭和52年》

再び巨人と対戦。代走蓑田の本塁突入、捕手のタッチをかわして見事に生還し、ブレーブスに流れを引き寄せ、日本シリーズV3を達成した。

阪急ブレーブス(上田野球)の全盛期であった。

《昭和63年10月19日》

阪急ブレーブスは(オリックス)への球団譲渡を発表。半世紀に及ぶ歴史と伝統を誇り、パリーグ優勝10回、日本シリーズ3連覇の輝かしい戦歴を残して、一時代の幕を閉じた。

阪急ブレーブス黄金時代の名選手を紹介します。

【福本豊外野手】

昭和57年まで13年連続盗塁王タイトル獲得、通算(1065回)は、当時の世界記録で(世界の盗塁王)と呼ばれる。

【山田久志投手】

昭和44年ドラフト会議1位、16年連続二桁勝利を達成、昭和51年には自己最多の26勝をはじめ、最多勝3回・最優秀防御率2回、さらには最高勝率を4回も獲得。まさに(阪急のエース)。

【山口高志投手】

昭和50年ドラフト会議1位、山口投手は阪急ブレーブスの黄金時代を支え、日本プロ野球史上最も速い球を投げた投手とも言われる。

野村克也は自らの著書で「自分の見た投手の中で、一番速かったのは山口だと思っている。全く手に負えない球だった」と語っている。



1937年 西宮球場 開場を告げるポスター

